

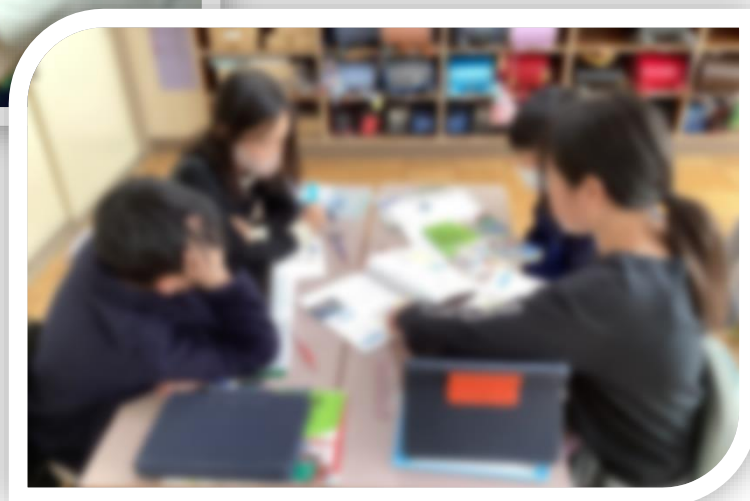
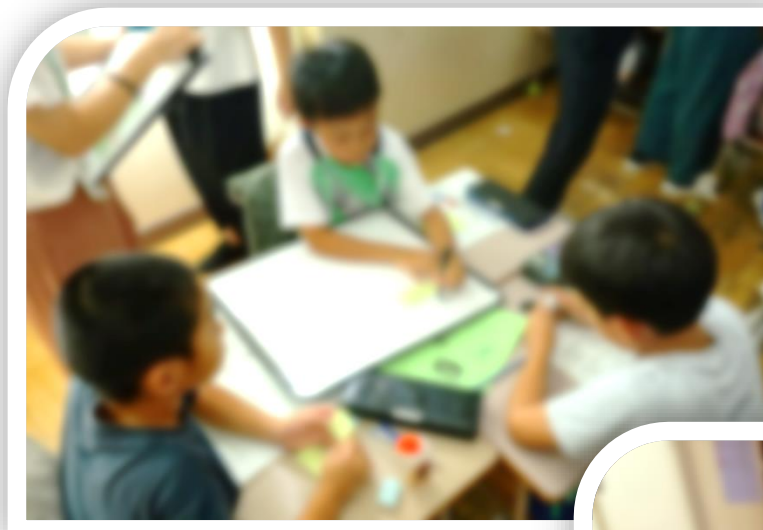
令和5年度 江戸川区教育課題実践推進校

教育課題「魅力ある学校づくり」

研究主題

**児童のメタ認知能力を高め、
自己有用感を味わわせる教育活動の展開**

～魅力ある学校を目指す指導・環境づくり～



江戸川区立北小岩小学校

〒133-0051 東京都江戸川区北小岩2丁目15番1号

電話 03-3659-5351 FAX 03-3672-4654 学校HP



はじめに

全世界を巻き込んだ感染症の影響は、我が国の学校教育にも大きな変化をもたらしました。その一つに2カ月間に渡る全国一斉の休校措置です。このことにより、GIGAスクール構想が前倒しされ、ICT機器が学習活動において活発に利活用されました。オンラインでの学習が広まり、それまでの学校に登校し集団で学習に取り組むスタイルからの変容が、学校の在り方を考えさせるきっかけになったと思います。本校は江戸川区教育課題実践推進校の指定をいただき、「魅力ある学校づくり」を通して不登校対策をしていく研究に取り組む機会を得ました。不登校の要因は必ずしも学校要因が主とは言えませんが、学校が児童にとって魅力を感じる場所にするには、私たち教職員にとって重要な課題です。児童だけでなく、保護者や地域、そしてそこで働く教職員にとって「魅力ある学校」とは何かを考え、その実現に向けた教育活動の枠組みで「カリキュラム・マネジメント」と、学習の主体となる児童自身の「メタ認知」の視点で研究に取り組んできました。本研究において、東京学芸大学教育学部教授 森本康彦先生には、2年間に渡り方向性を支え理論構築のご示唆をしていただきました。また、江戸川区教育委員会教育長 蓮沼千秋先生をはじめとする教育委員会事務局の皆様には、様々な面でご支援ご指導をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

江戸川区立北小岩小学校 校長 藤島 寿晴



【魅力ある学校】とは…

【調査対象】

- ・全児童（1学期・3学期アンケート実施）
- ・教員（4月 アンケート実施）
- ・保護者（10月 アンケート実施）

学習

- ・「面白い」「分かる」「できる」授業
- ・授業力のある教員
- ・学習規律の整っている環境
- ・「分からない」と言える雰囲気
- ・個別支援ができる
- ・学び合いが活発な授業

学校生活

- ・いじめがない・友達がいる
- ・教員との信頼関係・居場所づくり
- ・落ち着いている・活躍の場がある

学校施設

- ・魅力ある環境
- ・安全な環境
- ・ユニバーサルデザイン

特別活動

- ・魅力のある行事
- ・異年齢交流が活発
- ・自己の成長を実感できる
（キャリア教育）
- ・個のよさが認められる

手だて

学習

- ・研修の充実・教員の授業力改善
- ・ICTの活用
- ・カリキュラムマネジメントの充実
- ・北小スタンダード
- ・話型の掲示 ・別室対応
- ・教材研究の時間の確保
- ・規律の統一

学校生活

- ・hyper - QUの活用
- ・交流の場の設定 ・本の活用
- ・ふわふわ言葉の掲示
- ・保護者との連携

学校施設

- ・興味関心をもてる掲示やコーナー
- ・掲示の場所 ・使用のきまり
- ・特別支援級との連携
- ・環境を見直す機会の設定
- ・ユニバーサルデザイン化

特別活動

- ・児童の自治的活動の確保
- ・出前授業や地域交流の実施
- ・キャリアパスポートや、学びのアルバムの活用

研究構想図

児童の実態

- 素直で優しい児童が多い。課題に対しては従順に取り組むが、主体性に関しては課題がある。
- 学力は東京都の平均をわずかに下回っている。思考面での課題がみられる。
- 対話等の場面では、自分の考えを伝えることはできるが、友達の意見を聞いて高めていくことは難しい。

教育的課題

- 学びに向かう力を育成するために主体的に学びに向かう姿勢を育成する必要がある。
- 協働的な学びを深めていくために自己有用感を高め、自己も他者も認めていく学習の素地を培う必要がある。
- 個別最適な学びを授業の中で行うために、指導と評価を一体化し、連続させていく必要がある。

〈研究主題〉

児童のメタ認知能力を高め、 自己有用感を味わわせる教育活動の展開

～魅力ある学校を目指す指導・環境づくり～

目指す児童像

見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びを通して、自己のメタ認知能力を育て、身に付けた資質・能力を自覚したり、共有したりして、自己有用感を味わうことができる児童。

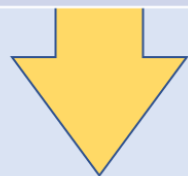
研究仮説

教師が主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導改善と、学校環境の整備を図ることで、児童のメタ認知能力を高めて自己有用感を味わわせることができ、児童が充実した学校生活を送り、自ら三つの資質・能力を育む姿が見られるだろう。

今年度の取組と成果と課題

研究主題に迫るための手だて

	北小スタンダード	カリキュラムマネジメントの充実
1年生	<ul style="list-style-type: none">・ 授業の流れ・ C層への手だて・ 対話的な学習の充実	<ul style="list-style-type: none">・ ゴールイメージの共有・ 図書館司書との連携・ 他教科との関連
3年生	<ul style="list-style-type: none">・ 1単位時間の流れ・ C層への手だて・ ふり返りの充実	<ul style="list-style-type: none">・ 対話的な学習の充実・ 考えをもてるようにする工夫・ 他教科との関連
5年生	<ul style="list-style-type: none">・ 1単位時間の流れ・ C層への手だて	<ul style="list-style-type: none">・ 対話的な学習の充実・ 社会科の見方考え方・ 他教科との関連



詳しくは各学年の実践報告をご覧ください

第1学年 授業実践

9月

第1学年 授業実践

11月

国語科『だれが、たべたのでしょうか』

国語科『はたらく じどう車』 『「のりものカード」でしらせよう』

ゴールイメージの共有

対話的な学び

改善案

手だて

単元の初めに、児童のやってみたいこと等の思いや願いを「単元のめあて」として設定する。毎時間の学習の中で、単元のめあてに対してどこまで達成できたか、次に何をしていくか等の振り返りを繰り返していくことで、メタ認知能力の向上を図る。

「話す・聞く」に関する指導を継続的・長期的・計画的に行うとともに、グループでの活動を通して協働的に学ぶよさや意見を交流することのよさを実感できるようにする。

- ▲単元のめあてを意識して学習に取り組むことはできたが、児童が毎時間の自己の成長や変容を認識するための手立てが不十分であった。
→ICT機器を活用することで、学びの履歴を蓄積し、自己の成長に気が付くことができるようにする。
- ▲「相手の方を見て話す・聞く」に関して定着が不十分である。また、「友達のよさ」に目を向けることができる児童が少ない。
→「話す・聞く」に関する指導を継続して行うとともに、学習の中にペアやグループでの活動を意図的に取り入れる。また、児童の実態に応じて、友達のよさに関する振り返りの視点を示し、協働的に学ぶよさに目を向けられるようにする。

- 単元のめあての設定するとともに、教室内に掲示することで常に意識できるようにする。
- 振り返りの視点を示し、自己の学びを具体的に振り返ることができるようにする。

- 「相手の方を見て話す・聞く」という指導を徹底する。
- あいづちを打つことの大切さを指導するとともにあいづち例を示す。
- 話す時には順序を表す言葉や理由を表す言葉を用いるよう指導する。

児童の姿

【単元のめあての設定】
『「だれが、たべたのでしょうか」で、まなんだことを生かして、クイズたいかいをしよう!』

【クイズ大会の様子】
問い「これは、だれの足跡でしょう？」
↓
答え「これは、ゾウの足跡です。」

単元のめあてを設定することで、見通しをもち主体的に学習に取り組むことができた。

友達に自分の考えを伝えることができた。
→対話をより活発に行うために今後も指導が必要である。

ICT機器を活用して、学びの履歴を蓄積し、自己の成長を振り返ることができた。

図書館司書と連携し、自己に適した図書館資料を選ぶことができた。

第3学年 授業実践

9月

第3学年 授業実践

11月

体育科保健領域『けんこうな生活』

社会科『わたしたちのくらしと商店』

自分の考えをもつ

対話的な学び

改善案

手だて

自分の考えをもたせることで対話的な学習につなげるとともに、学習を通して達成感や自己有用感を味わえるようにした。

- めあてを明確に示す。
- 絵や図、表を活用して視覚的にも課題をとらえやすくする。
- 付箋というツールを活用することで学習意欲の向上を図る。
- 考える時間を十分に確保する。
- 保健の見方・考え方の活用。

「話す・聞く」に関する指導を継続的・長期的・計画的に行うとともに、グループでの活動を通して友達と協力することや意見を交流することのよさを実感できるようにした。

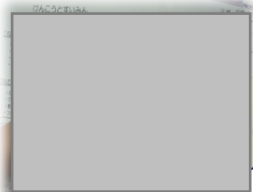
- 「相手の方を見て話す・聞く」の徹底。
- あいづちを打つことの大切さの指導とあいづちの例示。
- 自分の考えと違うところや同じところを探しながら聞くよう言葉がけをする。
- 話すときには順序を表す言葉や理由を表す言葉を用いるよう指導する。

- ▲付箋に書くという個人作業、付箋の仲間分けというグループ活動、兄弟班で同士の意見交換と盛りだくさんになってしまい、最後の振り返りの時間が不十分であった。
- 全体共有のあとの個人思考で、再考することでメタ認知能力や自己有用感を高めることができると考えられる。また、振り返りを十分に行うことが、これまでの学びを整理し、定着を図るとともに、次の学びに繋げる大切な役割であることから、学習過程を1時間増やす。

- ▲グループで協力することや意見交換することで楽しさは感じているが、それを学びにつなげられる児童は少数であった。
- グループ解決の時間に友達に何かを伝えている児童や友達の意見によって気づき、発見がある児童を取り上げ、その態度や学び方も共有する。

児童の姿

付箋に自分の考えを書く。



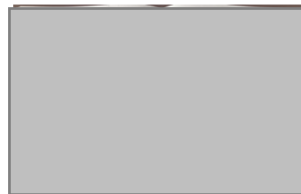
同じ仲間かなあ…。

毎日、決まった時間に寝ることが大切だよ。



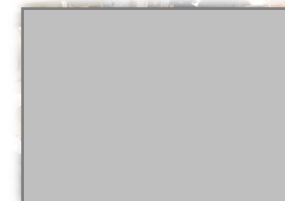
理由は…

なんで？



めあての確認をした後、自分の考えをノートに書き、その中から付箋に書くものを決めさせた。自分の考えを書く際には、写真や取材メモをもとに書かせた。

理由での仲間分けを行った。そのため、「なんで？」という言葉や「こっちかな？」と相談する姿勢が見られ、その態度を称賛することで対話が活発になった。



前時に自分の考えを書いていたことから、じっくりと兄弟班活動をすることができた。発表班は、理由をしっかりと伝えるとともに、質疑応答まで行っていた。

第5学年 授業実践

6月

第5学年 授業実践

11月

社会科『米づくりのさかんな地域』

社会科『私たちの生活と工業生産』

手だて

見方・考え方

社会科における「見方・考え方」に関する指導を行うことで、資料から必要な情報を読み取る力や、新たな課題をもてる力の育成を目指した。

- 【見方・考え方】
- 位置や空間的な広がり
 - 時期や時間の経過
 - 事象や人々との相互関係

対話的な学び

「話す・聞く」に関する指導を継続的・長期的・計画的に行うことで、対話的な学びを充実できるようにした。

- 「相手の方を見て話す・聞く」の徹底
- 相手の考えに反応する
- アイスブレイクを行いながらの「話す・聞く」の指導
- 資料をもとに自分の考えを伝える

改善案

▲学習計画を児童と設定する際には、学習活動と学習課題（めあて）の整合性をとれるよう、教師の配慮が必要であった。

→単元の終わりに、学習課題（めあて）がどうであったか振り返ることで、次單元につなげる。また、学習問題と学習課題の関連について、計画のときに意識できるように発問をする。

▲対話的な話し合いを充実させるために、教師の意図的な指示や発問を有効に使っていく。

→ICT機器を活用し、児童の気付きや考えを交流しやすくする。友達の意見に対して比較・評価する活動を設定し、友達の考えを上手に取り入れている児童を意図的に取り上げ称賛する

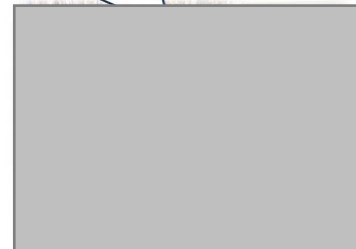
児童の姿

<資料を見て>

宮古市と酒田市のグラフを見ると、酒田市の方が一年間を通して降水量が多い→米づくりにはたくさん水を使うから、米づくりが盛んになったのではないか。



こちらの資料を見てください。ここから私は、この地域の人が川の近くで生活するために協力して木を植えていることを考えました。そのことで、洪水対策になっていると思います。



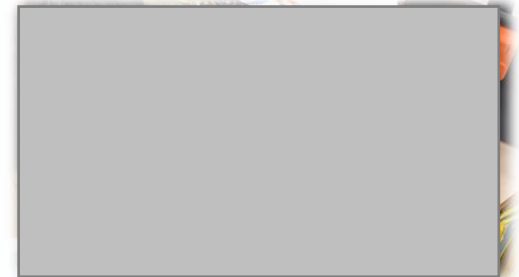
学習問題

「漁と海流との関係、漁師さんの工夫や協力していることについて知ろう」

学習計画

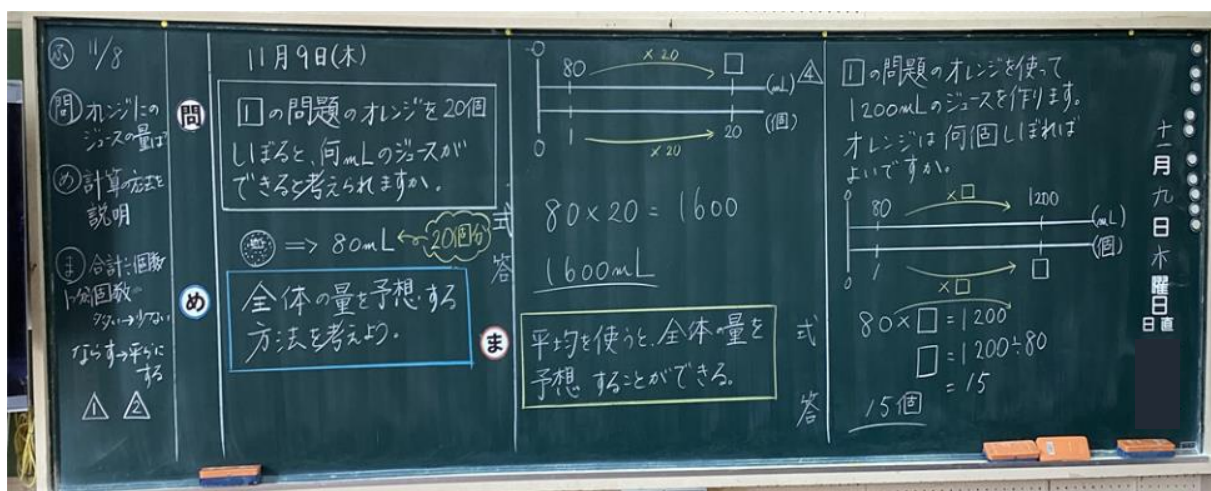
- ①学習計画を立てる
- ②日本の海流の特徴について調べる
- ③大陸だなの特徴について調べる
- ④⑤漁師さんの工夫や協力していることについて調べる
- ⑥調べたことをまとめる
- ⑦発表・ふり返り

友達の考えを見られることで、自分では気が付かなかったことを知ることができた。友達の考えを活かして自分の考えをまとめることができた。



《授業環境部会》

- どの児童にも授業が分かりやすく、理解しやすいものとなるために教室環境をユニバーサルデザインの視点で整えました。教室前面には児童の集中の妨げになるものは配置せず、板書で使用するチョークの色等も配慮しています。
- 児童の学びが共有されたり、考えが広がったりするのを補助するために授業においてICT機器を活用しています。授業環境部会では、今年度導入された「ミライシード」の研修を計画・実施し、実際の授業で活用できるオクリンクなどをどの教員も使えるようにしています。
- 魅力ある学校づくりのために児童の心が安定するように環境を整備しています。特に全校が使用する共用部分や体育倉庫なども定期的に点検し、整理整頓するように心がけています。



声の大きさ

座り方

えんぴつの持ち方



《「学びのアルバム」づくり》

児童の学びに向かう主体性をどのようにもたせるか、また、授業の中でどのように「自己有用感」や「メタ認知能力」を育てていくかを考えたときに、本校では『学びを振り返ること』が大切であると考え、自己の学びを記録する「学びのアルバム」（ポートフォリオ）を全校で作成しています。

「学びのアルバム」は、行事などを記録の写真とともに学んだことを残すことに加え、日々の教科学習の中でも学びの足跡を残すように記録していきます。自らの学びを振り返り、気づきを促し、自己と対話しながら次時への動機付けにつなげていきます。行事も学習も一つ一つが単独のものではなく、連続していて、そのつながりの中で学びが蓄積されていく。そのように考え、取り組んでいます。

＜ふりかえり＞

- ・わかるようになったこと
- ・できるようになったこと
- ・たのしかったこと
- ・がんばったこと

〇〇さんに、おしえてもらったから、できるようになったよ。

ともだちといっしょにやったら、たのしかったな。



学習や行事の振り返り

①自分自身の活動

- めあてをたっせいできたかどうか
- 自分の考えをもてたこと
- いちばん心に残ったこと
- 分かったこと、発見したこと、できるようになったこと

どのように？
どんなふうに？
どうしたら？

②友だちとの活動

- 友だちのおかげで分かったりできたりしたこと
- 友だちのよかったところ
- 友だちに教えたり伝えたりできたこと

ふり振り返り

わかったこと・できたこと

どうしたら？

友達に教えてもらって

資料を見て

先生に教えてもらって

できなかったこと

次回はどうする？

友達に教えてもらう

事前に調べる

2023/06/16



はっばがちょっとだけかれて
たけど大きくなってました。

北小岩まつり

4年1組〇番 名前

「自分の考えを伝えよう」

役割、工夫した事

活動はどうでしたか？

パワフルアドベンチャーの案内で、一、二、三、四、五、六年生までの人に楽しんでもらってまた来たいと思ってもらえるように、ルールがうまく分かってなかったら、実際にやる時に隣にいて合ってなかったり分からなかったりしたところを教えてあげるのを、頑張りました。あと、説明する時にどういのかなどが分かりやすいようにリレーで実際に使う物に、ピンポン玉を乗っけて、どう動いたりするのかをやったりして工夫しました。そして人がいない時はポスターを使って人々を呼んだり、三人以上、以下だった場合は、代わりにやってあげたり、半分に分けて説明してから1チームずつやってもらったりしました。

知らない人にも、恥ずかしがらず、怖がらずに頑張りました。遊びに行く時に、友達がいなかった君と、さんと、一緒に行くこと約束していたさんたちと、色々ところに行きました。最初に4-1に行っておチャをして相手の球に当ててしまっで勝たせてしまいました。次に3-2のシークレットクイズゲーム6-1のワンダーランド、6-2の6の2思い出屋台をしました。どの場所もすごく面白くて、楽しかったです。そして、5-2、5-1の謎解きと、北小岩の夢の国に行きました。どちらにもむずかしかったけれどなぞなぞではさんが大活躍で解けました。そして2-2の輪投げ大会場では距離がとなくて、一回も入らず、0点でした。北小岩祭りで、自分の考えを言うという大切さを学び、これからの学習で、話し合うときなどにこのことを、活かして生活して行きたいです。

《特別支援教育からのアプローチ》

児童のメタ認知能力を高め、
 自己有用感を味わわせる教育活動の展開
 ～魅力ある学校を目指す指導・環境づくり～
 特別支援教育部の実践から

特別支援教室での目指す児童像

個々の自立活動の目標
 (6区分27項目)

すべての児童に
 共通する指導目標
 (ベースとなる指導目標)

自己理解

自分の特性を理解したり、課題に対する自分の現状を理解したりする力をつける。

目指す児童像(全体)

見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動をふり返って次につなげる主体的な学びを高める教育活動の展開を行うことで、児童のメタ認知能力を育て、児童自身が興味をもって積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り、意味付けをしたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることで、自己有用感を味わえるようにしていく。

目指す児童像(特別支援教育)

自分の特性を理解したり、課題に対する自分の現状を理解したりするなど、自己理解を深めることで、自身のもつ困り感を主体的に改善・克服しようとする意識を高めることができる。

自己理解とメタ認知

メタ認知とは？

- 自分の「認知」を客観的に捉えること
- 自分の獲得した「認知」を活用すること

「メタ認知におけるモニタリング」
 日常生活の経験で得た感覚や情報を客観的に見ること

自己理解

自己選択力

自己決定力

自己認知力

モニタリングによって得られた情報を自分の持つ知識と照らし合わせて感情や行動をコントロールする。

- 自分の特性を理解したり、課題に対する自分の現状を理解したりする力
- 自分の特性による課題を補おうとする力

指導の手立て

- ・個別指導目標の設定 実態把握
- ・学習活動 必然性ある課題設定
- ・評価 連携 価値付け
- ・指導の連続性

他の認知スキルを高める

個別指導計画の設定

児童例：（困り感）勝敗の受け入れが苦手で、人間関係の構築に課題がある。

実態把握

- 在籍学級・・・在籍学級担任の観察記録
- 家庭・・・指導資料の作成・面談記録(成育歴・家庭の様子)
- 関係機関・・・発達検査・医療、療育機関

対象児童の困り感

長期目標

○1年後のなっしてほしい具体的な児童像

- (1) 自己の気持ちを理解し、結果などについて見通しをもちながら活動することで、勝敗の受け止め方や思い通りにいかない場面での気持ちの対処の仕方を身に付ける。
- (2) 他者の感情や意図を意識し、他者と円滑なコミュニケーションや人間関係を築くことができる。

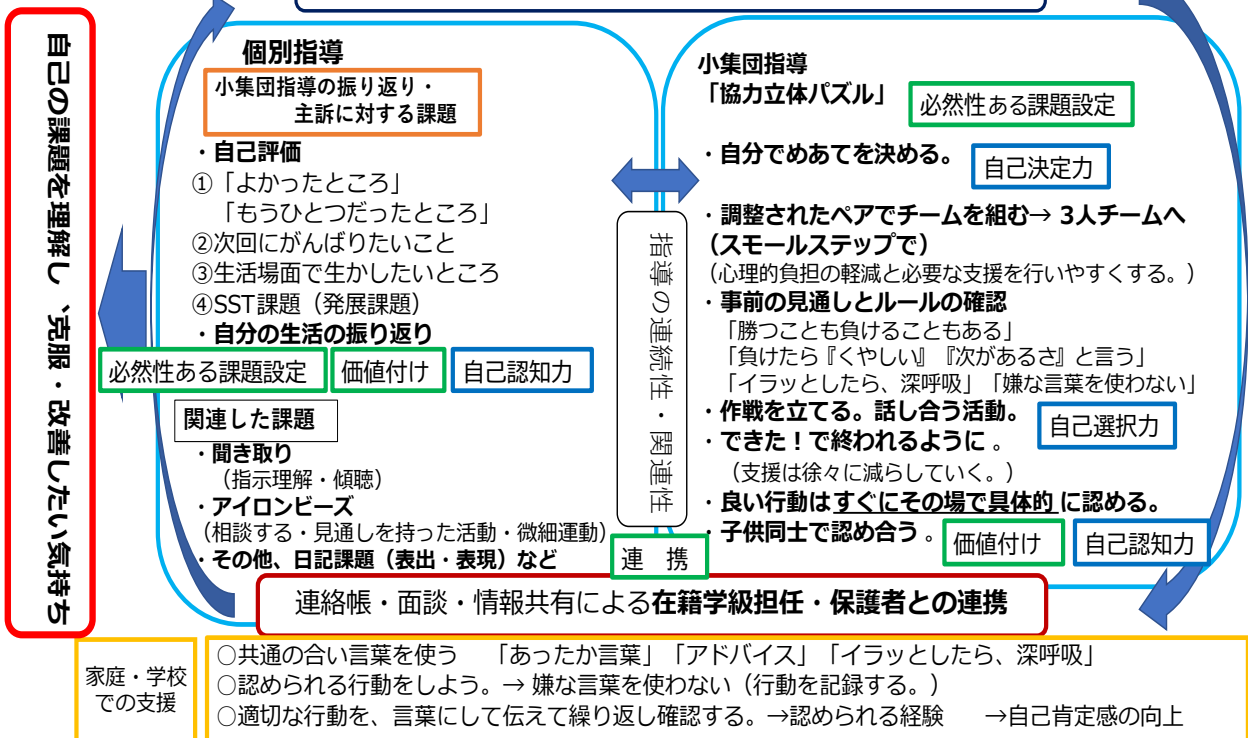
短期目標

○確実に獲得させたい具体的なスキルや行動

- (1) 思い通りにいかない場面でも、受け止めて、気持ちを落ち着けて次の活動に参加する。
- (2) 相手が嫌な気持ちになる言葉を言わない。

指導の実際（例）

実態把握 専門員の記録・介助員の記録

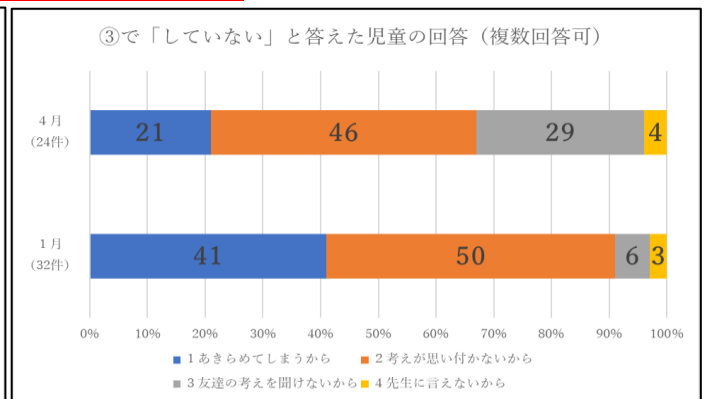
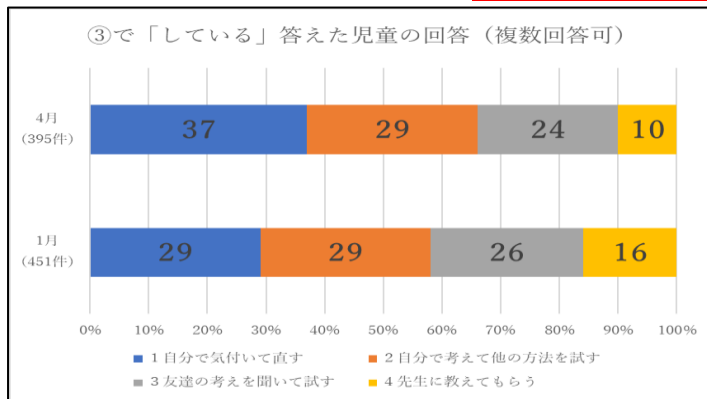


【成果と課題】

調査方法 「自分の学習や活動に関するアンケート」

(1) 分析結果 (回答数 4月実施304名、1月実施300名)

	①自分に必要なことを考えて、学習や活動のめあてを決めることができる。		②学習や活動がうまくできなかった時でも、諦めずに取り組むことができる。		③うまくいかなくても、自分の学習や活動をよりよくしていこうとしている。	
	4月	1月	4月	1月	4月	1月
1・2年生	74%	82%	93%	95%	85%	94%
3・4年生	78%	88%	91%	94%	94%	95%
5・6年生	80%	79%	81%	91%	86%	89%



低学年では、質問①、③に増加が見られた。4月は、学習に対して粘り強く取り組むことはできているが、課題を決めたり、それに対して振り返りができていなかったりする傾向があった。北小スタンダードで1単位時間の流れを統一したり、他者と対話する場面を多く設定したりしたことで、学習に見通しをもてるようになったと考えられる。それによって、違う方法を試したり、友達や先生に聞いたりしながら、自己の学習の課題を決めたり、活動を振り返って改善しようとしたりする児童が増えた。

中学年では、質問①に増加が見られた。4月は、課題を決めることに苦手意識があることに加え、学習や活動がうまくいかなくとも自分で解決しようとする児童が多い傾向にあった。学習課題の設定では、ゴールイメージを明確にしたり、各教科の見方・考え方における指導を取り入れたりすることで、自分の身に付けたい力や、目指す姿のイメージがもてるようになったと考えられる。どの教科でも「自分で課題を設定し、友達との話し合いによって課題を解決していく」という学習スタイルで統一したことで、相互評価の機会が増えた。特に3年生から始まった教科(社会科・理科・総合的な学習の時間)において、その学習スタイルが身に付いたことで課題設定ができる児童の割合が高まった。また、振り返りの視点を明確にすることで、課題をより意識できるようになった。自分の考えをもち、友達と考えを比較することで、自分の考えを広げたり深めたりすることができたと考えられる。

高学年では、質問②に増加が見られた。4月は、全体的に苦手なことに取り組むことが難しく、諦めてしまう児童が多い傾向にあった。学習内容の理解が十分ではないのか、課題を決めることができない児童が見られた。自分で考えて取り組む児童より、友達のことを参考にしたり、他者に聞いたりして理解を深めようとする傾向があった。増加理由として、学びのアルバムを活用した振り返りや、対話的な学びの経験を積み重ねることによって、自己の課題や変容をより等身大で捉えられるようになり、見通しをもって次時への意欲を高めることができたからであると考えられる。

自己を比べ、互いのよさに気付いたり、認め合ったりする中で、自己有用感の高まりも見られた。

③で「していない」と答えた一部の児童については、自分の学習や活動をよりよくしていくことができない理由として「あきらめてしまう」「考えが思い付かない」が増加した。他者の考えを基に取り組めるようにはなってきたが、1人の力で考えることに課題があるため、個別の支援の充実を図る必要があると思われる。また自分をより客観的に把握して、自分に合った課題が立てられるようにする必要があるため、学びのアルバムを振り返ることに継続して取り組み、経験を積み重ねていくことが重要であると考えられる。

(2) 成果と課題

○学びのアルバムから自分の成長や課題を知り、目指す姿を自分で決めることで、児童のメタ認知能力が高まった。
○1単位時間の流れを統一したり、年間計画を見直したりすることで、各教科や行事との関連を意識し、主体的に学習に取り組める児童が増えた。

○他者と対話する場面を多く設定することで、相互評価する機会が増え、自分と他者との関係を自他共に肯定的に受け入れられるようになった。

△自己の振り返りを継続的に行える環境の整備。

△個に応じた指導や支援が効果的にできる教員の指導力向上に取り組む。

あとかぎ

本校では、令和5年度、江戸川区の教育課題実践推進校の指定を受け、東京学芸大学の森本康彦教授に年間講師をお願いして「魅力ある学校づくり」をテーマに研究に取り組んでまいりました。

昨年度は同じく森本先生に御指導いただきながら、「対話的な学びの実践」をテーマに、指導と評価の一体化を目指す授業づくりに取り組んでまいりました。令和4年度は、「対話的な学びを通しての資質・能力の育成」「学習評価（フィードバック）」「相互評価」「自己評価」の4つを研究の視点として研究を行いました。昨年1年間の研究で学んだことをベースに、児童の自己有用感を高め、子供たちが生き生きと通う学校、魅力ある学校を目指していきたいという思いから今年度の研究がスタートしました。

今年度は、研究主題を「児童のメタ認知能力を高め、自己有用感を味わわせる教育活動の展開」、副主題を「魅力ある学校を目指す指導・環境づくり」として、児童の自己有用感を高めるために授業・環境の改善に取り組んできました。研究を進めながら、「魅力ある学校」とはどのような学校なのか、何をしたら児童の自己有用感が高まるのかを考えてまいりました。特別なことをするのではなく、日々の授業を中心とした教育活動をカリキュラムマネジメントの視点で関連させながら、児童の様々な場面での学びを蓄積し、価値付けていく。それを繰り返すことで自己有用感を高めていこうと考えました。本校の研究が御参会の皆様や江戸川区の学校の先生方の支援の一助となると幸いです。

終わりにになりましたが、今回、教育課題実践推進校として発表させていただく機会をいただきました江戸川区教育委員会、並びに、2年間講師として御指導いただいた、東京学芸大学教育学部教授 森本康彦先生には、大変お世話になり感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

私たちの研究には「これで終わり」はありません。今後もさらに研鑽を重ねて参りたいと存じます。今まで研究に携わった全ての方に御礼申し上げます。ありがとうございました。

江戸川区立北小岩小学校 副校長 前田 真一

研究に携わった教職員

◎授業研究部長 ○授業環境部長

校長 藤島 寿晴 副校長 前田 真一

1年 小高 めぐみ 小峯 拓也 2年 島田 征哉 仲里 恵

3年 ◎野田 亜紀子 渡邊 美穂 4年 小林 哲 酒井 明香里

5年 小林 祐也 ○中野 今日子 6年 小池 孝之 中村 美鈴

音楽 河野 愛 図工 小野瀬 恵子 算数 小泉 遼馬 養護 五十嵐 麻美

巡回指導教員 平田 真之 大園 三穂 加藤 龍大 小林 はるか 堀 誉弘

渡辺 七以 飛山 由紀子 小材 紗喜 瀨瀬 雄也 今井 彩詠子

事務 吉田 美恵子 山田 ミカ 岩尾 貴子 小笠原 美貴

主事 長沼 恵利子 塩澤 美智子 渡辺 知子

栄養士 太田 礼子 学年アシスタント 原田 祐里 副校長補佐 荻原 美佳

ご協力いただいた大学院生 森 健斗さん 畑中 美里さん 長野 里音さん（東京学芸大学大学院）